

国道15号品川駅西口駅前広場 デザインコンセプトと今後の展開について

原島 康輔

関東地方整備局 東京国道事務所 交通ターミナル整備課 (〒102-8340 東京都千代田区九段南1-2-1)

東京国道事務所では、品川駅において新たな交通結節点を整備するため、2019年度より国道15号品川駅西口基盤整備を進めている。2023年6月に「国道15号品川駅西口基盤整備に関する事業推進会議」を開催し、「国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト」を公表した。また、品川駅周辺は再開発事業等多くのプロジェクトが計画されており、周辺事業者との連携が不可欠である。本稿では、デザインコンセプト及び今後の展開について整理した。

キーワード 国道上空デッキ、官民連携、交通結節点、デザインコンセプト

1. はじめに

品川駅は、山手線などのJR在来線、東海道新幹線、京浜急行線が乗り入れ、一日の利用者が非常に多い駅である。また、品川駅西口には多数の路線バスやタクシー等の乗降場が位置し、羽田空港へのアクセスもよいことから、日本の玄関口として利便性の高い交通結節点であると言える。

さらに、品川駅の将来の姿として、リニア中央新幹線の始発駅や地下鉄南北線の延伸、環状4号線の整備、その他周辺再開発事業など、日本の玄関口としての整備が進められている。



図-1 品川駅周辺の状況

東京国道事務所では、品川駅に面する国道15号の地上階における駅間広場の拡張及び国道上空デッキの整備を行う国道15号品川駅西口基盤整備を進めており、2023年6月に「国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト

」¹⁾ (以下、デザインコンセプトとする。) を公表した。デザインコンセプトは、道路上空を活用した道・駅・まちをつなぐ駅前広場の整備を進め、多様なモビリティのシームレスな乗り換えを可能とする人が主役の都市交通ターミナルを目指し、2019年に公表した「国道15号品川駅西口駅前広場事業計画」²⁾を踏まえ、計画の検討を進めたものである。

本稿では、デザインコンセプト及び今後の展開について整理した。

2. 品川駅西口の現況と課題

品川駅は、羽田空港へのアクセスの良さやリニア中央新幹線の始発駅など、日本の玄関口として高いポテンシャルを持つ駅である。駅の利用者が非常に多く、環状4号線の整備や地下鉄南北線の延伸等、事業が進められていることから、今後も駅利用者の増加が見込まれる。さらに、品川駅周辺にはMICEや宿泊施設、商業施設、オフィス等のサービスを備えた複合施設の開発計画があり、品川駅周辺の活性化も考えられる。

しかし、国道15号に面する品川駅西口駅前広場については、大きく2つの課題を抱えている。

1つ目は、駅を中心とした路線バスやタクシー等の乗換えが不便なことである。品川駅はバスの乗降場が分散しており、バス停に向かうために設置されている横断歩道橋がバリアフリー化されておらず、高齢者や荷物を持った人に大きな負担となる。また、バス停がある歩道が狭小のため、バス利用者と歩行者の錯綜が生じている。

2つ目は、駅と周辺施設の繋がりが良くないことである。品川駅について、JR在来線の改札は2階に位置しており、品川駅西口から周辺施設に移動するためには国道

15号を横断する必要がある。つまり、駅から周辺施設に移動するためには、一度階段を降りて、国道15号を横断する必要がある。



写真-1 品川駅西口駅前広場の現況

3. 国道15号品川駅西口基盤整備について

(1) 事業の経緯

2017年2月に「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」の実現に向けて、「国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針（国土交通省・東京都）」をとりまとめ、その後、事業計画の策定に向けた提案、検討や調整等へ協力する民間の事業協力者と公募し、2018年10月に「国道15号・品川駅西口駅前広場整備事業計画検討会」を設立して、産学官連携のもと計画の具体化を図り、2019年3月に事業計画を策定した。

同年4月の事業着手後、国際交流拠点となる品川駅に関する周辺事業者と計画段階から連携しながら調整を進め、2023年6月に国道15号品川駅西口基盤整備の検討状況や進捗状況を有識者、関係自治体、周辺事業者で共有を行い、円滑な事業推進を図ることを目的とする「国道15号品川駅西口基盤整備に関する事業推進会議」を開催し、「国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト」を公表している。

(2) 国道15号品川駅西口基盤整備について

国道15号品川駅西口基盤整備の目的を3つ挙げる。

1つ目は、地上階における駅前広場の拡張である。国道15号を拡幅し、タクシー、路線バス等の乗降場を配置することで、駅前広場の混雑を解消し、バス及びタクシーの利用者と歩行者の錯綜を解消する。

2つ目は、国道上空デッキ整備による歩行者の利便性、安全性の向上である。京浜急行本線連続立体交差事業により、品川駅のところでは線路が地平化され、国道15号の上空に品川駅と周辺施設を繋ぐデッキを設けることで歩車分離が図られ、2階の改札から西口地区へ上下移動や信号待ちなくスムーズな移動が可能となり、利便性、安全性が向上する。

3つ目は道・駅・まちが一体となった賑わい空間の創出である。国道上空デッキを整備することにより、駅と

周辺施設がつながり、一体的な空間が創出される。品川駅は当該事業だけではなく、再開発等のプロジェクトが計画されており、駅を中心とした賑わい空間を官民連携で整備する。

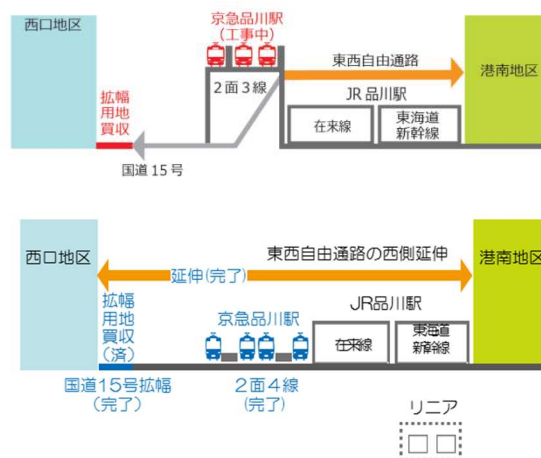


図-2 国道上空デッキの整備イメージ

4. デザインコンセプトについて

デザインコンセプトでは周辺開発と連携しながら道路上空を活用した道・駅・まちをつなぐ駅前広場の整備を進め、多様なモビリティのシームレスな乗換えを可能とする人が主役の都市交通ターミナルを目指しており、ミチウエ・スクエア・品川の3つのキーワードで整理している。

(1) ミチウエ：階層的かつシームレスな交通結節点

道路（ミチ）の上部空間（ウエ）を活用し、国道上空デッキを整備することで、周辺開発と一体的なデッキネットワークを構築する。国道上空デッキを整備することで、在来線、東海道新幹線、地下鉄、自動車、バス、タクシー、シェアサイクル等の多様な交通モードが階層的に配置され、縦動線にてシームレスに繋ぐ。各交通モードの配置は、モビリティ技術の進歩に合わせて段階的に整備する計画であり、国道上空デッキ及び地上階、周辺地域との広域的な繋がりを可能とし、道・駅・まちの一体化を図る。国道上空デッキは歩行を支援するパーソナルモビリティや周辺地域への移動を支援する乗合型モビリティを導入するほか、品川駅の改札からスムーズに乗換えが可能となるようにタクシー等の乗降場を配置する。

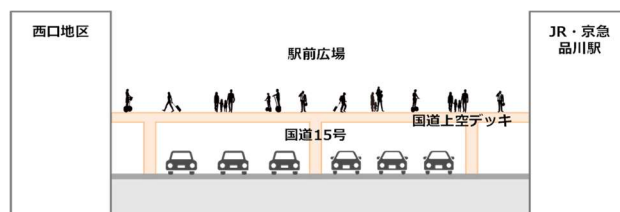


図-3 ミチウエ活用のイメージ

災害時は国道上空デッキを帰宅困難者等の一時避難所や救急・救援等の活動拠点として活用する。また、地上階は、鉄道不通時の代替バスの乗降場として機能する。

(2) スクエア：屋根に守られた駅前空間

国道上空デッキは、交通機能だけではなく、利用者の快適な空間の整備も必要である。利用者の利便性を向上するサービス機能を備えた待合空間（交通広場建屋）を配置する。交通広場建屋には、道路交通情報等の交通結節点機能や観光案内所、コインロッカー、食事施設等のサービス機能等が考えられる。

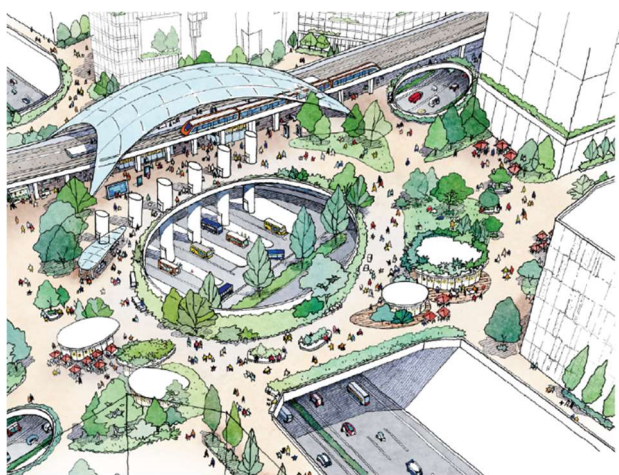


図-4 駅まち空間における一体的な年のイメージ³⁾

(3) 品川：品川らしさ＝時代のニーズに応える

交通結節点を整備することにおいて、その土地の地域特性を踏まえた整備は非常に重要である。品川駅周辺は、明治初頭に国内初の鉄道事業として開業し、2003年には東海道新幹線が開業するなど、常にまちの玄関口としてその時代のニーズに応じてきている。

このような背景を踏まえ、品川駅西口駅前広場では、脱炭素社会の実現に向けてGX（グリーントランスフォーメーション）を推進するため、BRTや自転車等の低炭素道路交通システムの導入及び木材利用や駅前広場の緑化計画など、環境に配慮した取組みを推進する。



図-5 BRTや自転車等を中心とした低炭素な交通システム³⁾

また、時代のニーズに応えるという品川らしさは、環境に配慮した取組みだけではなく、利便性向上を図る新技術の導入も挙げられる。多様な交通モードをシームレ

スに接続するMaaS等の新しいサービスや、デジタルサイネージ等を活用した道・まち案内等、利用者の移動を支援する新しい技術の導入を目指す。これらの新技術は、国道上空デッキ上だけでなく、周辺事業者と連携し、品川駅を中心とした一体的な整備を目指すことで、利用者の利便性向上につながる。

5. 今後の展開について

デザインコンセプト公表後の方針として、大きく5つ挙げる。

(1) 周辺開発との一体的な景観検討

国道上空デッキは、品川駅と国道15号を挟んだ周辺施設を繋ぐ空間であるため、一体的な景観の創出は非常に重要である。景観を検討する際に、各地域特性を踏まえた要素を盛り込むことで、地域に馴染む景観の創出につながる。品川駅西口の特性として、高輪森の公園等の武蔵野台地の緑が挙げられる。そのため、高輪森の公園までの抜けを意識し、景観の検討を進める。

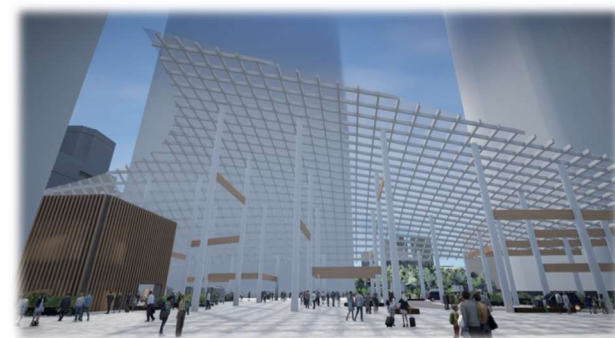


図-6 高輪森の公園への視線の抜け¹⁾

(2) サイン計画

品川駅西口と周辺施設を繋ぐ国道上空デッキは、利用者を目的地へスムーズに案内する機能が重要であると考ええる。そこで、サインだけでなく、スマートフォン等のデバイスを活用した案内も有用ではないかと考える。スマートフォン等のデバイスに目的地を設定すると、画面上に目的地までの案内が表示されるような、AR技術等を活用した案内サービスを導入することで、外国人観光客やMICE利用者等、サインだけではわかりにくい人への補助として機能するのではないかと考える。

(3) 管理運営

品川駅西口駅前広場の整備に関する検討だけではなく、整備後の管理運営方法についても検討する必要がある。国道上空デッキと周辺施設の一体的な賑わい空間を創出する計画であるため、周辺事業者と連携した管理運営が重要である。連携した管理運営を実現するためには、品川駅、国道上空デッキ、周辺施設を一体的に管理していく体制を整えることが重要であると考えられる。

具体的には、周辺事業者と国で維持管理に関する組織

等を設立し、国道上空デッキを含めた品川駅周辺の一体的な管理を行う体制の整備していきたい。維持管理の資金調達方法等の調整を官民連携で進めることにより、一体的かつ効率的に管理運営を行うことができると考える。

(4) 新技術の導入について

デザインコンセプトより、品川らしさとして「時代のニーズに応える」を挙げており、新技術の導入を推進している。新技術の導入として、低炭素道路交通システムの構築や自動運転の促進等考えられるが、将来の交通システムに対応可能な道路の整備は必要であると考え。今後の技術進歩により、自動運転車両、電気自動車、BRT等が国道15号及び国道上空デッキ上を走行することを想定し、実装可能な整備を現段階から検討する必要がある。

特に、低炭素道路交通システム推進に対する関心が高く、今後道路を走行する車両は電気自動車等環境に優しい車両が主流になることが想定される。そのため、BRTや電気自動車（自動運転も含む）等の専用レーンの整備について検討が必要であると考え。専用レーンと併せて、BRTの乗降場の確保や、電気自動車等の充電スポットの設置も検討するべきである。他にも電気自動車や燃料電池車のための非接触給電レーンや水素ステーションの設置の検討など、今後の技術進歩を想定した対応が必要であると考え。

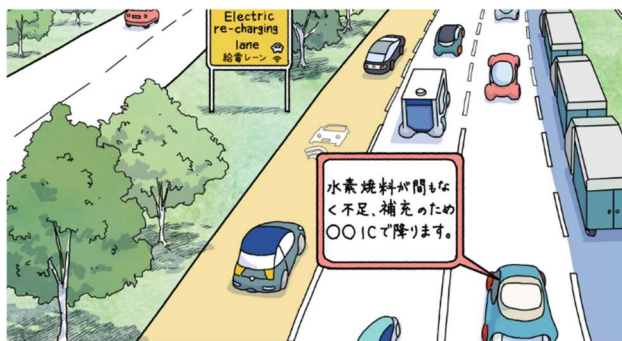


図-7 低炭素道路交通システムのイメージ³⁾

新技術の導入に向けて、机上での検討だけでなく、実証実験を行うことも実現のために重要である。そのため、民間企業から国道上空デッキ及び地上階を活用した交通結節機能に関する新技術導入の実証実験を募ることを考えていきたい。将来品川駅西口駅前広場に整備することを検討している新技術が、実際に導入可能か実験し、周辺事業者と一体的に検証することで、品川らしさである、常に時代のニーズに応える交通結節点の整備が可能になると考える。

(5) 防災機能について

交通結節点に防災機能の確保は重要であるが、品川駅西口駅前広場だけで災害に対応することは困難である。そのため、道路管理者単体、あるいは施設単位で対応するのではなく、品川駅西口駅前広場を中心とした周辺事業者との連携及び空間の共有を行うことで、災害時に柔

軟な対応ができると考える。具体的には、国道上空デッキ及び待合空間を一時避難所として活用し、帰宅困難者等に配給する食糧・水等の備蓄スペースを周辺開発の建物内に確保するなどが挙げられる。食糧等の確保以外に、簡易テントや携帯トイレ等の生活備品、負傷者に対する医療品の確保も必要である。

今後は、周辺事業者と連携し、品川駅周辺の防災ガイドラインを策定するなど、防災に対する共通意識を持つことが重要であると考え。また、周辺事業者だけでなく、災害時における医療機関からのベッドの空き状況等の情報提供など、防災拠点として機能できるよう、官民連携で整備することが必要と考える。

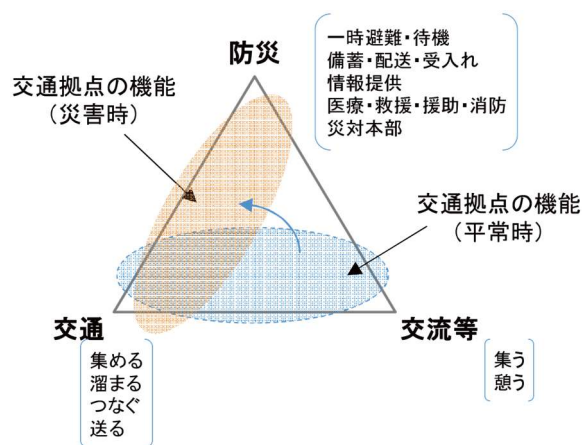


図-8 交通結節点の機能⁴⁾

6. 終わりに

2023年6月に公表したデザインコンセプトでは、ミチウエ・スクエア・品川の3つのキーワードを基に整理した。従来の交通結節点は交通機能に重点を置き、事業を進めてきたが、今後は交通機能だけではなく、賑わい創出や景観形成等の交流機能、災害時における防災機能等、多岐にわたる機能が求められ、交通結節点の機能強化を図る際には、交通結節点を取り巻く多様な主体との連携により整備していくことが重要である。国道上空デッキにおける賑わい空間の創出やモビリティ等における新技術の導入など、利便性向上に向けた取組みを官民連携で推進していきたい。

7. 参考文献

- 1)国土交通省関東地方整備局東京国道事務所：
国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト
- 2)国土交通省関東地方整備局東京国道事務所：
国道15号品川駅西口駅前広場事業計画
- 3)国土交通省：2040年、道路の景色が変わる
- 4)国土交通省道路局：
交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン